



道頓堀 弁天座 (1936年)

展覧会

日本の映画館 MOVIE THEATRES IN JAPAN

2022年4月12日(火) - 7月17日(日) 国立映画アーカイブ 展示室(7階)

いま全国の映画館は、一か所に多くのスクリーンを持ち効率的経営を行うシネマコンプレックス(シネコン)が主流になり、映画が娯楽の王者だった時代の豪勢な大型劇場や、どの都市の街角にもあった小さな映画館の多くは姿を消してしまいました。東京浅草に日本初の映画常設館が誕生してから120年近く経ちますが、その間、私たちはどんな空間で映画を楽しんできたのでしょうか。

「映画館で映画を見る」という何げない行為も、震災、戦争、復興、経済成長といった社会情勢や、人々の暮らしのモードの変化とともに移り変わってきました。この展覧会は、映画館の写真、プログラム、雑誌・書籍、実際に映画館で使われた品々などを通して、映画館の誕生、映画興行の発展期からミニシアターの時代まで、シネマコンプレックス登場以前の日本の「観客の映画史」に迫ります。とりわけ、往年の貴重な興行資料を軸に、二つの大都市(川崎・北九州)の例を通して、映画館と人々のかかわりを示すとともに、建築としての映画館の変遷や、人の目に触れにくいフィルムの映写という技能にも着目します。

インターネット配信による鑑賞がますます根つき、また新型コロナウイルス感染症のあおりで映画館運営が厳しさを増す現在、本企画は、映画館に人々が集うことの意義を再び確認するとともに、映画の持つパワーを映画館という場所から捉え直す好機となるでしょう。

映画館の歴史を総まとめ

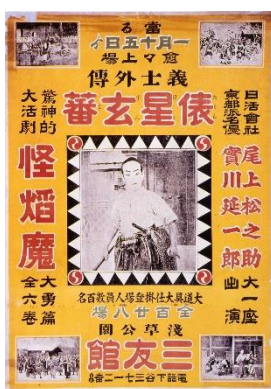
映画興行発展の象徴となった東京浅草六区、戦前期の映画館建築、劇場が発行したプログラム・雑誌、戦時下の映画館の状況、フィルム映写、大型劇場が開場した戦後の映画黄金期、映画館を飾った絵看板、日本各地の映画館、1980年代のミニシアターブーム、映画館をめぐる本といった多彩なトピックで日本の映画館の歴史をたどります。

展示資料のご紹介

▶ 1903年に浅草で開業した**日本初の映画常設館・電気館**の初期の姿を捉えた写真や浅草六区の模型、映画説明者の人気を反映した**活動写真弁士番付表**や日本初の映画スター「目玉の松ちゃん」こと**尾上松之助**主演作品の**ポスター**など、初期の映画館と映画興行の様子を伝える多彩な資料をご覧ください。



(左から)
 浅草六区電気館前ステレオ写真〔部分〕(1905年頃) 個人蔵
 六区活動写真街模型 東京都江戸東京博物館所蔵



(左から)「全活動写真弁士番付」(1914年)、『依星玄蕃』(1916年、尾上松之助主演)ポスター、京橋 第一福宝館 (1919年)

▶ 関東大震災から急速に復興し、娯楽産業の中心となった戦前期の映画興行の先進性を感じさせる**モダンなデザイン**の映画ポスターは現在の目から見ても斬新です。



(左から)
 『椿姫』(1927年、村田実監督)ポスター
 『キートンの結婚狂』
 (1929年、エドワード・セジウィック&バスター・キートン共同監督)ポスター

▶ 映画館の心臓部ともいえる**映写**。かつては免許制度もあった**映写技師の仕事**にも注目します。また、時には映画作品以上に記憶に残る**映画館の姿**を**建物**や**絵看板**の写真でご紹介します。さらに、1974年にスタートした**岩波ホール**の「エキブ・ド・シネマ」など、**1960年代から1980年代にかけてのアートシアター／ミニシアターの活動**を振り返ります。



(左から)
 アクメ商会映写機カタログ (1931年)
 テアトル東京 (1961年) 東京テアトル株式会社所蔵



(左から) 千日前 OS スバル座 (1953年) 貴田明良氏所蔵
 エキブ・ド・シネマ No.1『大樹のうた』(1959年、サタジツ・レイ監督) パンフレット

特別コーナー <ある街の映画館>

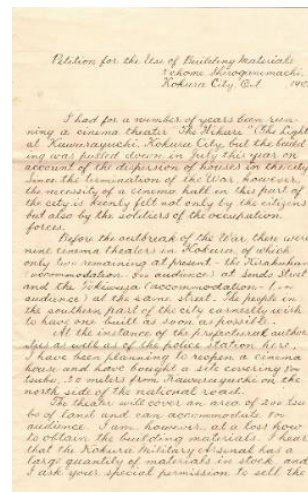
川崎市で映画館をメインとする事業を展開し、今年創業100周年を迎える**株式会社 チネチッタ** (旧美須興行) と、北九州市の映画・芸能資料館**松永文庫**が所蔵する映画興行主の旧蔵資料が、映画館が人々の日常の暮らしに寄り添ってきた時代を描き出します。

[特別コーナーの構成]

- ① 東京から川崎へ～映画館「チネチッタ」の100年
- ② 北九州と興行主・中村上^{じょう}～松永文庫所蔵資料より



日暮里 第一金美館 (1922年) 株式会社 チネチッタ所蔵



映画興行主中村上から占領軍への映画館建設物資使用の陳情書 (1945年) 北九州市松永文庫所蔵 (中村上コレクション)

開催概要

	<p>日本の映画館 (英題 / Movie Theatres in Japan)</p>	 <p>展覧会 日本の映画館 2022.4.12(火) - 7.17(日) 国立映画アーカイブ展示室(7階) 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6 TEL: 03-3561-0823 FAX: 03-3561-0830</p> <p>展覧会チラシ</p>
主催	国立映画アーカイブ	
協力	株式会社 チネチッタ、北九州市松永文庫	
会期	2022年4月12日 [火] - 7月17日 [日]	
休室日	月曜日、5月24日 [火] - 5月27日 [金] は休室です	
開室時間	午前11時 - 午後6時30分 (入室は午後6時まで) * 毎月末の金曜日のみ開室時間を午後8時まで延長いたします。(入室は午後7時30分まで)	
会場	国立映画アーカイブ 展示室 (7階)	
アクセス	東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分 東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分 JR 東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分	
料金	<p>一般 250円 (200円) / 大学生 130円 (60円) / 65歳以上、高校生以下及び18歳未満、障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料</p> <p>* 料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。* () 内は20名以上の団体料金です。 * 学生、65歳以上、障害者、キャンパスメンバーズの方は入室の際、証明できるものをご提示ください。 * 国立映画アーカイブが主催する上映会の観覧券(半券可)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。 * 2022年5月18日(水)「国際博物館の日(毎年5月18日)」は、無料でご覧いただけます。</p>	
	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止策につきましては、当館HPをご確認ください。 https://www.nfaj.go.jp/ge/topics/20200625/</p>	
お問合せ	050-5541-8600 (ハローダイヤル)	
HP	https://www.nfaj.go.jp/exhibition/movietheatres2022	

【本展覧会に関するお問合せ】

国立映画アーカイブ 事業広報担当：横田 / 展示・資料室：岡田・濱田

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6 MAIL : pr@nfaj.go.jp TEL : 03-3561-0823 FAX : 03-3561-0830

広報用画像 & 読者プレゼント招待券申込書

展覧会「日本の映画館」

送付先 **国立映画アーカイブ 広報担当** メール：pr@nfaj.go.jp FAX：03-3561-0830

* 広報用画像をご希望の方は、本プレスリリースに掲載されている画像右下の番号をご参照の上、貸出を希望されるデータの口にチェックをつけ、上記の宛先までをご送付ください。

①	浅草六区電気館前ステレオ写真 [部分] (1905年頃) 個人蔵
②	六区活動写真街模型 東京都江戸東京博物館所蔵
③	「全国活動写真辯士番附」(1914年) 国立映画アーカイブ所蔵
④	『俵星玄蕃』(1916年、尾上松之助主演) ポスター 国立映画アーカイブ所蔵
⑤	京橋 第一福宝館 (1919年) 国立映画アーカイブ所蔵
⑥	日暮里 第一金美館 (1922年) 株式会社 チネチッタ所蔵
⑦	『椿姫』(1927年、村田実監督) ポスター 国立映画アーカイブ所蔵
⑧	『キートンの結婚狂』(1929年、エドワード・セジウィック&バスター・キートン共同監督) ポスター 国立映画アーカイブ所蔵
⑨	アクメ商会映写機カタログ (1931年) 国立映画アーカイブ所蔵
⑩	道頓堀 弁天座 (1936年) 国立映画アーカイブ所蔵
⑪	映画興行主中村上から占領軍への映画館建設物資使用の陳情書 (1945年) 北九州市松永文庫所蔵 (中村上コレクション)
⑫	テアトル東京 (1961年) 東京テアトル株式会社所蔵
⑬	千日前 OS スバル座 (1953年) 貴田明良氏所蔵
⑭	エキブ・ド・シネマ No.1『大樹のうた』(1959年、サタジット・レイ監督) パンフレット 国立映画アーカイブ所蔵

※太字の作品名・作者名・制作年・所蔵表記は掲載必須です。

画像データ貸出希望日時	月	日	時頃までに希望
読者プレゼント招待券	組	名 (合計	枚) 希望します

プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。3. 展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。4. 作品画像は全図で使用してください。部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。5. **画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載**ください。6. 掲載紙 (誌) は、1部、広報担当宛にご寄贈ください。web サイトの場合は、掲載時にお知らせください。
 * 画像データ (JPEG) にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。
 * **掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。**

お名前： _____ ご所属・媒体名： _____

出版物・放送番組名： _____

TEL： _____ FAX： _____

メールアドレス： _____